



川本選手 5年の歳月を経て五輪行き実現!



▲50秒台を出してメダル獲得を狙う

川本選手は狙っていた前回五輪のリオデジャネイロ大会への出場を逃し、コロナ禍の延期を加え、実に5年の歳月を費やしてついに舞台となる。選考会を兼ねた4月の日本選手権。100mバタフライ準決勝で51秒00の「高速水着」時代の日本記録に並んだ。決勝は惜しくも2位に甘んじたが、51秒25の好タイムで派遣標準記録を突破し、個人種目の代表の座をつかんだ。

五輪での目標も、「50秒39のタイムで銀メダル」と具体的な。自慢のスピードを生かし切りたい。

メダル奪取へ五輪!!!

小西選手&難波選手 奮い立つ同級生コンビ!



▲持ち味のスピードで決勝進出を目指す



▲技術と筋力で世界と勝負

小西選手と難波選手は高校、大学と同級生として過ごしてきた。2015年の中京大入学時には両選手とも期待の星として中京大学スポーツの取材を受けており、念願のオリンピックへの夢を実現した。

日本選手権女子背泳ぎの100m、200m両種目を制した小西選手はわずかの差で派遣標準記録を突破することはできなかったが、400mメドレーリレーへの出場が決まった。個人種目出場は即決定とはいかなかったが、その後も続く好調さなどから100mへの出場が有力だ。

「メドレーリレーでは(背泳ぎの)私は第1泳者で種目の記録が、その後も続く100mへの出場が有力だ。」「4人のチームとしての目標はもちろんメダル。僕は47秒台(のラップタイム)で引き継ぎたいです」と力を込めた。

現在の男子自由形短距離勢は強力な選手が揃っており、日本がこれまでやや苦手としてきた自由形でも東京五輪では上位進出が期待されている。これは難波選手もライバルたちとともに実力通りの力を発揮すれば表彰台は現実のものになる。

現役生イサ選手 留学生パワー炸裂!



夢の舞台で自己ベスト更新を目指す

中京大勢唯一の現役生として東京五輪に臨むのが、水泳部のイサ選手だ。6月初めに開かれたジャパンオープン大会を前に、故国から代表決定のうれしい知らせが届いた。そしてその後に行われたジャパンオープン男子100m自由形で51秒69をマークし、自らの持つオマーン記録を1秒余り更新、その朗報に応えた。

イサ選手は2018年、水泳選手としてスポーツの国費留学で、スポーツ科学部に入學。一変した環境のなかで懸命に努力を続けてきた。

「最初は日本の練習について行くのが精一杯。きつとした泳ぎを身につけるという以前の状態でした。その克服に3年近くがかかったが今年の冬ごろからずっと力をつけてきた。」

「五輪では種目を100m自由形に絞り、さらなる記録更新を目指したい。できれば50秒台半ばを」と話す。

コロナ禍で一年延長となっていた五輪・パラリンピックの東京大会が目前に迫った。中京大勢は、大会の目玉競技ともいえる競泳と陸上競技にそれぞれ4選手、3選手が参加する。また、オリンピックとしての出場ではないが、競技コーチ、チームのアナリストやトレーナーとして日本代表チームに加わる人たちがいる。大会は一定の制限下での実施となったが、多くの人たちが注目しているのは手に取るように感じられる。各出場者の意気込みをお伝えする。

TOKYOオリンピック 競泳スケジュール

7月25日(日)	7月26日(月)	7月27日(火)	7月29日(木)	7月30日(金)	7月31日(土)	8月1日(日)
19:00~ 女子100m背泳ぎ予選 小西杏奈選手 男子4x100m フリーリレー予選 難波曜選手	10:30~ 女子100m背泳ぎ準決勝 小西杏奈選手 男子4x100m フリーリレー決勝 難波曜選手	10:30~ 女子100m背泳ぎ決勝 小西杏奈選手 19:00~ 男子100m自由形予選 アル・アダウィイサ選手	19:00~ 男子100mバタフライ予選 川本武史選手	10:30~ 男子100mバタフライ準決勝 川本武史選手 19:00~ 女子4x100m メドレーリレー予選 小西杏奈選手	10:30~ 男子100mバタフライ決勝 川本武史選手	10:30~ 女子4x100m メドレーリレー決勝 小西杏奈選手

陸上も熱い！俺達が魅せる!!!

陸上競技では、4000人以上の障害者の安部孝駿（ヤマダホールディングス、2013年度体育学部卒）、4000人の川端魁人（三重教員AC、2020年度スポーツ科学部卒）、棒高跳びの山本聖途（トヨタ自動車、2013年度体育学部卒）の男子3選手が出場する。

既に心は本番！
川端魁人選手の気迫



安部孝駿選手は29歳にして念願の五輪出場を決めた。期待されながら故障などもあって、2012年のロンドン、2016年リオデジャネイロ大会とチャンスを逃したが、今回はしっかりとつかみ取った。

東京五輪代表選考会を兼ねた日本選手権は6月下旬、大阪・ヤンマースタジアム長居で行われた。すでに五輪参加標準記録を突破しており、3位以内に入れば代表が内定する。昨年までの安部選手なら「（五輪出場は）決まったも同然」と言っても決して過言ではないほどの強さを発揮していたが、今季はそのレースぶりなどにやや心配する声があったのも事実だ。

しかしそれは杞憂だった。3組に分けて行われた予選をトップで通過すると、翌日の決勝ではスタートから好位置につけ、昨年までの安定した走りを取り戻した。惜しくも優勝は逃したが、48秒87のまづまずの記録で2位を確保した。

安部選手は「本番でも良い走りができるように、きっちりと調整して臨みたい」としている。



念願の
五輪切符を手に出番だ！
安部孝駿選手

国内聖火リレーで貢献
五輪経験者・青山繁さん

東京五輪には、主役の選手たちのほかに、多くの人たちがさまざまな形で関わっている。国内の聖火リレーもその一つだ。多くの中京大関係者も各地で参加した。スポーツ振興部職員の青山繁さんもその一人。4月5、6の両日に実施された愛知県で参加した。青山さんは初日の5日、国宝・犬山城で知られる木曾川に沿った犬山市を走った。コースは、歴史の香りを残す本町交差点から犬山城まで。その第1走者としてトーチを掲げた。



バレーボールの代表として1992年バルセロナ大会に出場した青山さん。2000年の距離を時速6きで駆けつけて第2走者に聖火をつないだ。「トーチを掲げるとやはり、選手たちへの思いがさますま、湧き出てきましたね」。五輪経験者らしいコメントを残した。

一気に頭角を現したのが川端魁人選手だ。6月下旬の日本選手権4000で優勝、参加標準記録突破とはならなかったものの、45秒75の好タイムをマークし、16000リレーのメンバーに選出された。4年に進級した昨年、急速に力をつけてきた。10月に行われた日本グランプリ木南記念大会を、自己記録を1秒近く縮める46秒03で制して、東京五輪が夢ではなく、目標となっていった。

今年5月初めにポーランドで開かれた世界リレー大会に日本代表として16000リレーに出場。中心選手としてチームを引っ張り、日本チームの五輪出場権獲得に貢献した。その実績からよりメンバーとして五輪出場は有力視されていたが、日本選手権で見事にそれを証明して見せた。

好スタートから余裕を持って上位をキープ。3コーナーからのカーブで勝利を確信させた。最後の直線で早めにトップに立つと、きれいなフォームで逃げ切った。圧勝だった。「個人の目標としては44秒台のラップを刻むことです」。心はもう本番だ。

3回連続の五輪出場をつかんだ。大学3年の現役生として2012ロンドン大会へ、社会人になってからは2016年のリオデジャネイロ大会に出場している。ほぼ10年にわたり、棒高跳び種目で常に我が国のトップクラスの戦いに加わってきた。

世界の舞台での経験も豊富だ。世界選手権入賞アジア競技大会金メダルの実績もある。そして五輪は二度経験している。陸上競技ファンなら「ヤマモトセイタ」の名を知らない。人は少ないだろう。助走のスピードに魅力がある。自己ベストは5分77.5秒80を前にこれまで何度も足踏みをしてきたが、本番でこの高さをクリアすればさらに伸ばしていける力は十分にある。

ただ、東京五輪でファンからますます注目されるのは、最初の高さの試技だろう。なぜかと言えば、過去2回の五輪で記録を残していないからだ。一番悔しい思いをしているのは山本選手自身だろう。自国の五輪での爆発力に期待しよう。



最初の高さの試技に注目！
実績十分 山本聖途選手

TOKYOオリンピック陸上競技スケジュール

7月30日(金)		7月31日(土)	
9:00~	男子400mハードル予選 安部孝駿選手	9:00~	男子棒高跳び予選 山本聖途選手
8月1日(日)		8月3日(火)	
19:00~	男子400mハードル準決勝 安部孝駿選手	9:00~	男子400mハードル決勝 安部孝駿選手
		19:00~	男子棒高跳び決勝 山本聖途選手
8月6日(金)		8月7日(土)	
19:50~	男子4x400mリレー予選 川端魁人選手	19:00~	男子4x400mリレー決勝 川端魁人選手

※出場予定は変更となる場合があります。

おうちで応援しよう！

ハッシュタグをつけて
選手にエールを送ろう！

ハッシュタグ「#ベストMAX」をつけて
投稿していただいた方の中から抽選で、
選手のサイン入りグッズをプレゼント!!

70th
UMEMURA
ベストMAX